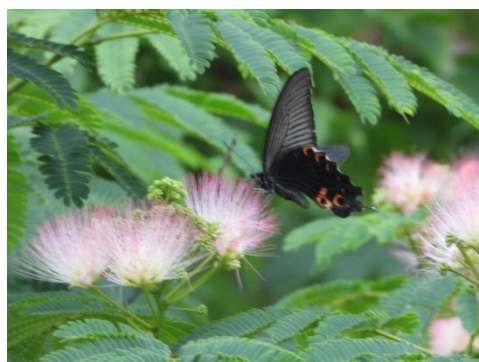




エフィラ愛川ふれあいの村 今月の風景

2026 年 7 月 自然のたより

近畿地方まで梅雨明けが発表され、関東の梅雨明けも間近と感じられる季節となりました。ふれあいの村でも、7 月に入り夏の日差しが日に日に強まっています。県の花であるヤマユリは大きく白い花を咲かせ、甘い香りを漂わせています。管理棟前のネムノキの花には、クロアゲハが蜜をすいに来ていました。村内の草木は生き生きとした姿を見せています。暑さが厳しくなる時期ではありますが、自然の変化に目を向けながら、夏ならではの自然を楽しんでみてはいかがでしょうか。(袖山)



ネムノキとクロアゲハ



水牛のようなノコギリクワガタ



宮沢林道でオオルリ



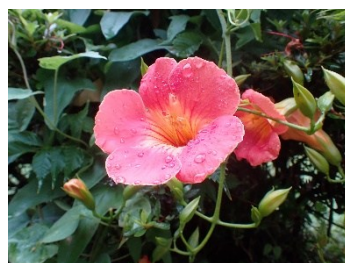
神奈川県の花ヤマユリ



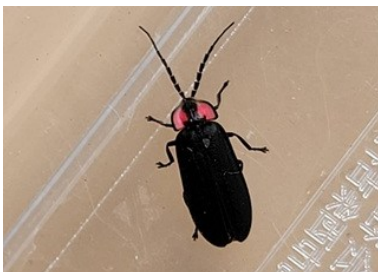
葉の一部が白い半夏生



ヤブカンゾウ



ノウゼンカズラ



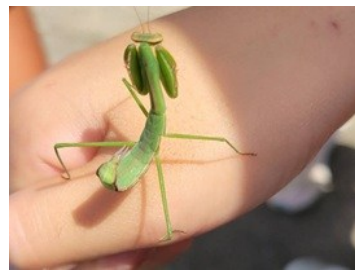
光らない蛍オオオバボタル



オジロアシナガゾウムシ



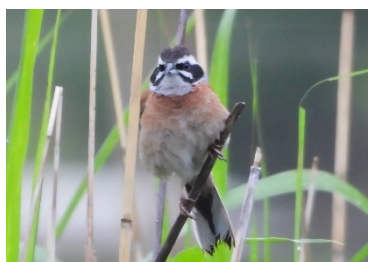
道先案内人ハンミョウ



ハラビロカマキリ幼虫



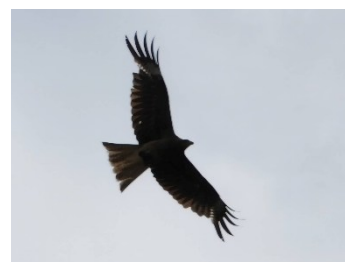
キビタキ第二駐車場で



歌舞伎顔のホオジロ



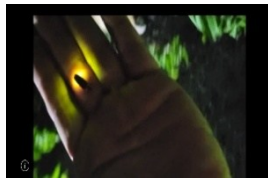
ピロピロビ〜んはカワラヒワ



空を翔けるトビ

トピックス★ホタルの話★

日本には約 50 種類のホタルが生息しています。ホタルといえば、梅雨時期の夜に点滅しながら田んぼや川の上をフワフワと飛び姿を思い浮かべます。日本に生息する約 50 種類のホタルの中で、成虫が強く光るのは 10 種類ほどです。面白いのは成虫が光るのは少ないが、卵や幼虫期はほとんどみんな、光るということです。何故か成虫になると光るのを止めてしまいます。成虫が光るのはオスとメスの出会いのためです。光らないホタルは匂いなど他の手段でコミュニケーションを取っています。愛川町でも、一部の地域で数は少ないが、ゲンジボタルやヘイケボタルが時々見られると地域の方が教えてくれました。やはり、ホタルといえばゲンジボタルとヘイケボタルが有名です。ゲンジボタルはそろそろ終わりです。ヘイケボタルは 7 月の終わりまで長く見られるのでまだ、チャンスがあるかもしれません。ホタルは環境の変化にとても弱い昆虫です。自然のバランスが繊細に保たれた場所しか生きられません。護岸工事、水質汚濁、夜間の人工的な光（光害）、餌となるカワニナの減少などであるという間に姿を消してしまいます。さらに、近年は異常気象が追い打ちをかけます。水が張られた田んぼや水辺でカエルが鳴き、そして夜にはホタルが舞う、そんな日本の原風景に憧れるのは私だけでしょうか。



（高梨）

生き物

★ヤマユリ★

7 月初旬、宿泊棟の横を歩けば、華やかな香りが漂っています。嗅覚の鈍い私でも、はっきりと感じ取れる花の香り。長い梅雨、ぐずつく霧雨を浴びながらも、ヤマユリの花は白く大きく咲き誇っていました。

花言葉に「荘厳」「威厳」など、錚々たる言葉が並ぶこの花は、かつて黄金の百合の英名を授けられた逸話を持ちます。日本では和歌や人名によく登場し、その偉大な雰囲気反して、身近な植物であったことが伝わってきますね。私も、ヤマユリの華やかな香りを浴びながら歩くのは、「人生の楽しみ」になりそうな気がしますね。（大谷）



旬

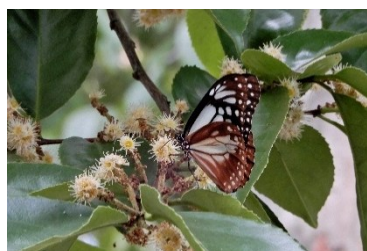
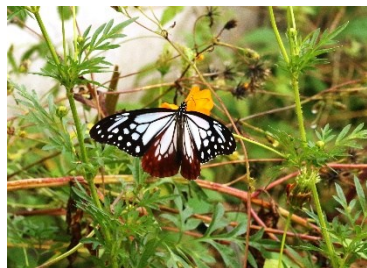
★ブルーベリー★

ブルーベリーといえば、ジャム界のレギュラーメンバーですね。ジャム以外でも加工食品は多岐にわたり、最近スーパーなどでそのままのブルーベリーも見かけるようになりました。愛川町内でも栽培されており、購入できます。ちなみに、私は少し凍らせてシャリシャリの状態で食べるのにハマっています。

そんなブルーベリー、実はツツジ科の植物です。花は庭木に多い「ドウダンツツジ」に近く、葉っぱもツツジの仲間と雰囲気が似ています。

ベリーと付く果物は他にもいっぱいありますが、いちご（ストロベリー）やラズベリーはバラ科、マルベリーはクワ科です。名前が似ていても、分類上はそれぞれ別々のグループというわけです。

ツツジ科はブルーベリーの他にクランベリーもあります。あ、ツツジの実はいくらでも食べられないベリーですよ！（中島）



来月の見どころ
旅をするアサギマダラ
タテハチョウ科のアサギマダラがどこからともなく飛んできてその美しさに見とれてしまうことがあった。滑空しながらゆったりと飛び、毒素のあるヒヨドリバナやフジバカマ、沢山咲くキバナコスモスなどで吸蜜している。「旅する蝶」として有名で、マキング調査によると秋の南下の際には千五百匹以上も飛ぶことが知られている。また一日に二百匹以上飛んだ記録もあるほど飛翔能力が高い蝶である。アサギマダラの食草はキシヨランやオオカモメツルであるが、ふれあいの村ではコバノカモメツルにかなり成長した幼虫がいて、いつも、通り過ぎるだけと思っていたのに、意外に身近に感じられたことを思い出す。これらの植物に含まれる毒素をため込んでいるので成虫になって飛んでいても鳥たちに狙われないらしい。
アサギマダラは羽を開くと十センチほどあるが、重さは一グラムにも満たないらしい。このチョウに不思議と大きな口マ、夢と希望を感じた。（吉田）